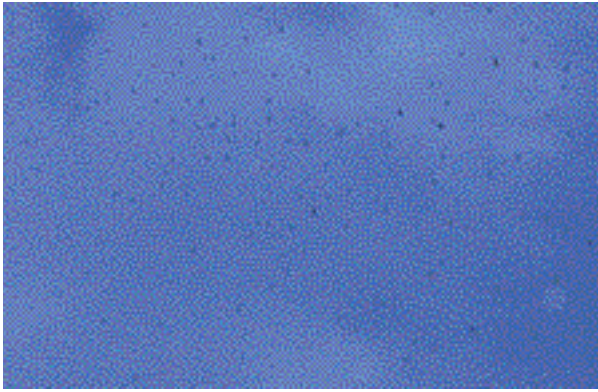


「ツバメのねぐら入り」は8月10日前後の夕方にピークを迎える



円山川右岸・豊岡市野上周辺のヨシ原



ツバメのねぐら入り

夏の円山川に集まる数万羽のツバメが一斉に急降下を繰り返す一大スペクタクル。

ゆっくりと地平線へと沈む真夏の太陽、やがて空が薄紫色をした夕暮れを迎える頃、円山川の夏の風物詩「ツバメのねぐら入り」が始まります。場所は円山川右岸、豊岡市野上から玄武洞にかけて広がる、幅500メートル、延長2キロにもおよぶ近畿地方最大級のヨシ原。

昼間は各地に散っていたツバメが集団で眠りをとるため、申し合わせたかのように一斉にこのヨシ原に集まってきます。下流の城崎、あるいは六方田んぼ・奈佐川、上流の日高・八鹿方面と、四方八方からぞくぞくとヨシ原に押し寄せ、薄暗くなる頃には上空はツバメの大群で真っ黒に。

集まってきたツバメたちはヨシ原の上をすべり飛び交い、または何度も何度も上空を旋回、そして「」から一気にねぐら入りが始まります。

ツバメの大群がヨシ原をめぐり、一斉に急降下して、ヨシの葉に止まりま

す。幾度も繰り返し返されるその光景は、まさに圧巻。

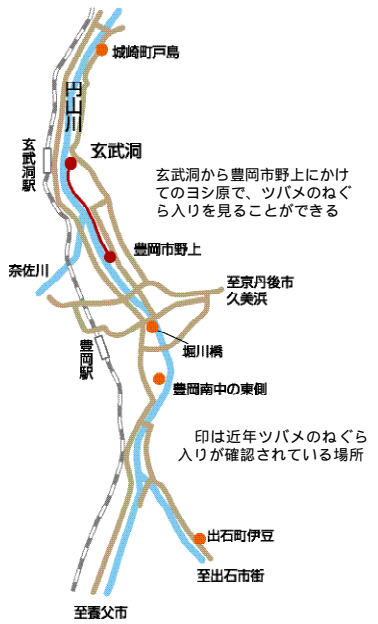
やがて日がどっぷりと暮れる頃には、今までの騒がしさが嘘のように静まり返り、みな眠りにつきます。

現在、近畿北部で確認されている「ツバメのねぐら入り」は、京都府舞鶴市、福知山市と、ここ円山川の3カ所。ほかの鳥も同じような行動をとるものもいますが、これだけの大群で集まるのはツバメだけだそうです。集団になることで外敵から身を守るためではないかといわれています。

このねぐら入りが見られるのは毎年7月中頃から。春に但馬へとやってきたツバメは軒先などに巣を作り、始めはその近くでそれぞれ夜を過しますが、やがて巣立った若鳥はヨシ原で夜だけ集まって睡眠をとります。

子育ての終わった親鳥も加わる8月10日前後には、その数、なんと2万〜3万羽、豊かな自然が残る円山川ならではの光景といえます。

「昼間は各地へ散っていた何万羽と



いつツバメが、ただ寝るためだけに、どこからとなく集まってくる。彼らは一体、どのようにして「ミニユニオン」をとっているんですかね。そうした自然の不思議さを感じます」とは、「但馬野鳥の会」の早川貞夫さん。

但馬には、ツバメ・コシアカツバメ・ワツバメの3種類が渡ってくるそうですが、ねぐら入りをするのは、なぜかツバメの1種類だけだそうです。また、「ここ3、4年は自然環境の変化により、ねぐらの場所が一定しなくなってきた」とのこと。次の日には1羽残らず、別の場所へと移ることもあると話してくれました。

「このねぐら入りは秋の渡りをするまで行われます。体力をつけたツバメから順に、選か2千キロ先の暖かい南国へと旅立ちていくと、但馬の暑い夏が終わる。季節の移ろいを感じる円山川の原風景がそこにはあります。

協力：但馬野鳥の会・早川貞夫さん
国土交通省豊岡河川国道事務所

不動産のことならライフフィットへ!

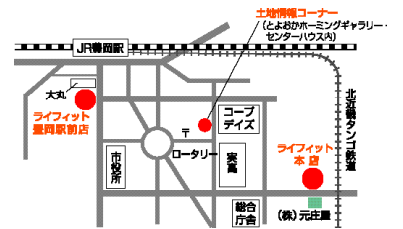
あなたは
どんなお部屋・
お家をお探ですか?



アパート、マンション、貸家、なんでもライフフィットへ!お気軽にご相談ください。

本店 豊岡市幸町4番4号 TEL.0796-24-2011 FAX.0796-24-2077
豊岡駅前店 豊岡市大手町1番27号 TEL.0796-26-6565 FAX.0796-26-6566

ご希望の物件情報を検索
できます
大好評!情報誌「ライフ
フィットタイムズ」進呈中!!



株式会社 ライフィット

(社)兵庫県宅地建物取引業協会 宅地建物取引業者免許
兵庫県知事(3)第650061号

ホームページ <http://www.lifit.jp>
E-mailアドレス info@lifit.jp

但馬街道



一二峠 ほいとうげ 【村岡町～美方町】

かつて村岡と美方を結ぶ
唯一の幹線道路だった一二峠。
頂上の御廟とブナの木は、
今も七美五郷を見守っている。



村岡町村岡の法雲寺にある山名史料館



村岡町秋山から、美方面神場を越えるちよと変わつた名前の一二峠。ほい、ほい

（村岡町福岡）に屋敷を構えました。寛永19年（1642）には、村岡藩の基礎を作つた三代藩主・矩豊公が、七美五郷の地理的中心である黒野村（村岡町）に屋敷を移し、地名を現在の村岡と改めたといわれています。

以後、村岡は明治に至るまでの約230年間、七美五郷の中核として栄え、一二峠は山を隔てた美方の人々にとって、城下町・村岡を繋ぐ欠かすことのできない道だったのです。

江戸時代末期には、但馬牛改良の祖・前田周助も、実家のあつた小代村（美方町）から牛市が開かれる村岡まで、丹精込めて育てた小代牛を引いて一二峠を越えました。

かつてこの地は七美五郷（七美、兎塚、射添、小代、熊次）と呼ばれ、慶長6年（1601）下関ヶ原の戦いで功績のあつた山名豊国公が初代領主となり、兎塚村

老人会によって大事に管理されている一二峠御廟



（美方町）から牛市が開かれる村岡まで、丹精込めて育てた小代牛を引いて一二峠を越えました。

また峠の頂上付近には、当時の様子を偲ばせる遺物として、初代藩主・豊国公の霊を祀る御廟が残されています。

これは、三代・矩豊公が村岡に屋敷を移したときに、祖父・豊国公の功績を讃えて建てられたといわれています。七美五郷を見渡せる場所として一二峠が選ばれ、領内の安定をはかる「守り神」としての思いも込められています。

地元の人は、豊国公が出家して禅高と称したことから、長野県善光寺と相まつて、御廟を「せんこうじさん」と親しみを込めて呼び、現在も老人会が世話をされているそうです。また、御廟を建てる際には、民の無

また峠の頂上付近には、当時の様子を偲ばせる遺物として、初代藩主・豊国公の霊を祀る御廟が残されています。



頂上にはあずま屋が整備されている。右は無難を折念して植えられたブナの大木

難（ブナ）を折念して、2本のブナの木が植えられました。御廟の脇には、但馬の巨木百選に選定されているブナの大木が雄大な姿でそびえています。

1本は大正期に枯れてしまいましたが、推定樹齢350年といわれる残りの1本は、七美五郷の



難（ブナ）を折念して、2本のブナの木が植えられました。御廟の脇には、但馬の巨木百選に選定されているブナの大木が雄大な姿でそびえています。

地を昔も今も変わらず見守り続けています。

Anniversary 10th 29.4万円 (税込)

開業10周年記念企画
セレモニープラン

キリスト教挙式料 結婚証明書
ご新郎タキシード & ご新婦ドレス一式
生花ブーケ 奏楽 & 聖歌隊

皆様に愛されて10年
ブルーリッジウエディング
Change for new style

夏の
プライダル
フェア
ご期待ください

オリックスグループ
ブルーリッジホテル
神鍋高原

兵庫県城崎郡日高町栗栖野55 〒669-5372
婚礼受付 Tel(0796)45-1400
http://www.inaker.or.jp/~blbridge/